を立ててごらん。見てあげるから。」

A子「じゃあ，もう少しがんばってみます。」

A子は，ようやく学習への意欲を示した。数日後，学習計画表を携え，受験に必要な科目の相談に職員室を訪れた。1時間ほどの相談後，A子は，ようやく自分が今何をなすべきかを理解したようであった。これからも相談しながら，学習を進めることとした。他の教科担任から，『A子の学習態度が落ち着いてきた』という声がきかれたのは，それからまもなくであった

家族みんなで買物ができた。

11月下旬，母親から電話がはいった。「先生，みんなで・・・買物に行ってきました。私もA子さんとおばあちゃんといろいろと買ってきました。夕食を一緒に食べたかったのですが・・・。それでも話ができまして・・・ありがとうございました。」

家族関係がほんとうに解決されたわけではないが，一緒に買物ができたことは，これからの家族関係に明るい見通しをもたらした。

次の日，A子は家族で買物をした時の様子を，にこにこしながら，担任に報告した。

8　考　察

この事例は，学級の受容的な雰囲気づくりと家族への気づきを通して，A子の環境を修正し，将来への目的を持たせて，不登校を防いだ例である。

(1)　A子とのラポール形成について

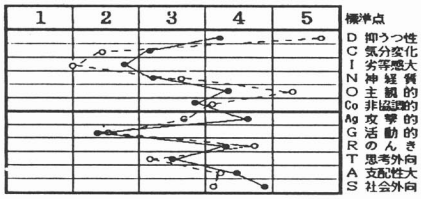
一緒にガラスふきをしたり，祖母の看病などから，A子の**良い点を見つけ**，親身に相談したことは，ラポール形成に有効であった。

(2)　A子への働きかけについて

ラポールの形成後，家事の手伝いを促し，遅刻を少なくして，生活の問題点を改善した。また進路問題や学習方法の相談をし，**進路への目標を自覚させる**ことで，意欲や**自分に自信を持たせること**ができた。看護学校への進学を希望し，努力する気持ちが見られるようになったことは，その現れといえる。

また，厚生委員としての活躍は，祖母や，**他人に対する思いやり**の気持ちを深め，**友人関係の改善**につながった。

10月実施のＹＧ性格検査は，「抑うつ性」や「主観的」の因子が薄らいだ。毎日の観察からも，自己中心性が和らぎ，級友と雑談する笑顔のA子の姿にその変容が現れている。



10月実施のＡＡＩ検査の結果は，偏差値が「32」から「43」に上がり，学習環境の項目は，「1」から「3」に向上した。特に勉強の意欲と学校・友人関係の項目に改善が見られ，心身の健康の項目は「1」から「2」に変容した。

以上の内容から祖母との心のきずなを深め，進路についての**目標を明確化**にしたことは，A子の情緒を安定させ，**問題行動に対する抑制要因の強化**になった。

(3)　学級への働きかけについて

A子の祖母思いの様子などを，それとなく話し，級友にA子の良さを気づかせた。また学級での**A子の活動の場**を持たせたことにより，**互いの個性を認めあう学級の雰囲気**ができた。A子を受け入れることのできる数人の生徒が，**教師の意図を理解**し，自然にA子を仲間として学級の中にとけこませたことで，**友人関係の調整**が図れた。

(4)　家族への働きかけについて

いくたびかの家族面接により，**父母や祖母とのラポール**が図られ，**家族の資料を適切に収集**できた。また**家族の人間関係の問題点**を，**家族それぞれが気づき，相互に改善を図れるように援助**した。

特に家族全員で買物をした経験は，今後の家族関係を安定させるきっかけになるものと考えられる。また複雑な家族関係に深入りせずに，働きかけたことも，効果的であった。